

1. 応募団体名		志摩市 (提案時は阿児町。平成 16 年 10 月 1 日に 5 町合併。)
		担当者名：都市整備課 濱口真吉 連絡先電話：0599-72-4308 連絡先メール：hamaguchi-shinkichi@city.shima.mie.jp
2. 調査名		体験型観光拠点（賢島周辺）整備調査及び基本計画
3. 推薦団体名		——
4. 調査の対象地域	(1) 対象となる行政区域名、地区名等	三重県志摩市阿児町賢島地区
	(2) 対象となる行政区域及び地区の特性	志摩市人口:61,716人(平成16年12月1日現在) 賢島地区の特性：観光ホテル・保養所・別荘等のほか、賢島駅および駅前商店街、無人島などを有する。
5. 提案した活動の内容	(1) テーマ、課題	行政、地元住民、学術機関の三者による協働型まちづくりの方法を取り入れ、自然との共存・体験をテーマに観光拠点づくりの調査及び基本計画の策定をする。伊勢志摩国立公園として、日本有数の自然環境を有しながら、長期の経済不況によって街の活力が失われている。
	(2) 本調査費による活動内容の概要	①本調査費により行われた活動内容の概要 ・賢島活性化会議 5回開催（平成16年11月・12月・平成17年1月・2月・3月）。地元関係者、観光関係者、行政、学術機関など各回15～20人が参加。調査に関わる全体の企画進行および計画検討を行う。 ・テーマカレッジ（早稲田大学と提携） 2回開催（平成16年8月・平成17年2月）。大学生10～40人が参加し、調査・活動・提案等を行う。各回の提案発表会には地元から約40人が参加。 ・社会実験「みんなが使える賢島」 1回開催（平成17年2月）。地元関係者、大学生など約30人が参加。車椅子・高齢者疑似体験グッズを使い、賢島の使いやすさなどを実地検証した。 ・まちづくりシンポジウム「海から発想する新・志摩市のまちづくり」 1回開催（平成17年3月）。志摩市民約180人が参加。川勝平太氏の基調講演のほか、市民代表5人の基調報告、招聘パネリスト4人によるディスカッションなどを行う。

6. 本調査と関連する活動実績		—
7. 本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など		<p>1. テーマカレッジ（夏） 車いすや高齢者に対するハード面での対応の遅れが指摘された。商店街の空き家の活用、多徳島のレンガ倉庫の整備などの提案がなされた。また、住民の自発性やイベントの継続など、ハード面以外のソフト面に関しても、課題が抽出され提案がなされた。</p> <p>2. テーマカレッジ（冬） 賢島の観光の低迷に対して、地元商店街と近鉄との関係のあり方が指摘され、提案がなされた。また、空きホテルの活用や人力海上タクシーなど、比較的資金のかからないビジネスの提案がなされた。</p> <p>3. 社会実験「みんなが使える賢島」 実際に車いすに乗り、高齢者体験グッズを身につけたことで、日頃気がつかないまちの問題点を発見し、同時に被験者自身の視野も広がった。また車いすの実験により島内全域の道路を車いすで通ることができるかを記入したマップが作成された。</p> <p>4. まちづくりシンポジウム 「海から発想する新・志摩市のまちづくり」 旧5町からの市民代表の報告により、志摩市での様々な活動を多くの人に伝えることができた。多くの市民が情報を共有することで、志摩としてのまとまりを生む出さきっかけとなったと考えられる。また、パネリストをはじめとした外部の人の参加があったため、全国へ情報が発信されていくことが期待される。</p> <p>5. 賢島活性化会議 地元住民、行政、学術機関が一体となり議論を進めることができた。</p>